十訓抄（大江山）　＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。【50点】

和泉式部、保昌が妻にて、丹後に下りけるほどに、京に歌合ありけるに、ア小式部内侍、歌詠みにとられて詠みけるを、定頼中納言、たはぶれて、小式部内侍ありけるに、「①丹後へ遣はしける人は参りたりや。いかに②心もとなくおぼすらむ。」と言ひて、①……、イ局の前を過ぎられけるを、オ御簾より半らばかり出でて、②僅かに……カ直衣の袖をひかへて、

大江山いくのの道の遠ければまだふみもみず天の橋立

と詠みかけけり。③思はずに……③あさましくて、「こはいかに。かかるやうやはある。」とばかり言ひて、返歌にも及ばず、袖を引き放ちて逃げられけり。

小式部、これより、歌詠みの世におぼえ出できにけり。

これはうちまかせての理運のことなれども、かの卿の心には、これほどの歌、ただいま詠み出だすべしとは、知られざりけるにや。

問一　二重傍線部ア～カの漢字の読みを現代仮名遣いを用いて平仮名で書きなさい。

問二　点線部①～③を現代仮名遣いに直しなさい。

問三　波線部A～Cの動詞の、⑴活用の種類と、⑵本文中の活用形を書きなさい。

問四　傍線部②・③を現代語訳しなさい。

問五　傍線部①「丹後へ遣はしける人は参りたりや。」で、定頼は何が言いたかったのか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　あなたは時々丹後の母に会いに行っているのでしょう。
イ　あなたは丹後の母に使いをやって歌を教わっているのでしょう。
ウ　あなたは丹後の母に時々上京してもらっているのでしょう。
エ　あなたは母が丹後に行ってしまったので心細いのでしょう。
オ　あなたは母が丹後から便りをくれるのを待っているのでしょう。

問六「大江山……」の歌で、小式部内侍は定頼に何が言いたかったのか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　母に会いに行ったりはしていません。
イ　母が都に来ることはありません。
ウ　母から便りをもらったことはありません。
エ　母はもう歌など作っていません。
オ　母に歌を教えてもらってはいません。

問五	問四	問三		問二	問一	
	②	C	A	①	エ	ア
		(1)	(1)			
問六						
				②	オ	イ
		(2)	(2)			
	③			③	カ	ウ
			B			
			(1)			
			(2)			

学年
組
番号
氏名
得点

十訓抄（大江山）　＊

〔出題の意図と留意点〕　古文でよく使われる言葉の読みを覚える。歴史的仮名遣いの特徴を理解する。動詞の活用の基本を理解する。言葉や行動に表れた人物の心情を読み取る。

☆解答例と配点

問一　**ア**うたあわせ　**イ**こしきぶのないし　**ウ**ちゅうなごん　**エ**つぼね　**オ**みす　カのうし〈12点〉

問二　①言いて　②わずかに　③思わずに〈6点〉

問三　**A**　①ラ行四段活用　②連用形　**B**　①ガ行上二段活用　②未然形　**C**　①ダ行下一段活用　②連用形（完全答）〈12点〉

問四　②待ち遠しく　③驚いて〈8点〉

問五　**イ**〈6点〉　問六　**ウ**〈6点〉

計50点

十訓抄（大江山）＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。【50点】

和泉式部、保昌が妻にて、丹後に下りけるほどに、京に歌合ありけるに、小式部内侍、歌詠みにとられて詠みけるを、定頼中納言、たはぶれて、小式部内侍ありけるに、「①丹後へ遣はしける人は参りたりや。いかに心もとなくおぼすらむ。」と言ひて、ア局の前を(過ぐ)A られけるを、イ御簾より半らばかり出でて、僅かに直衣ウの袖を(ひかふ)B て、

大江山②いくのの道の遠ければまだ③ふみもみず天の橋立

と詠みかけけり。思はずに(あさまし)C て、④「こはいかに。かかるやうやはある。」とばかり言ひて、⑤返歌にも及ばず、袖を引き放ちて逃げられけり。

小式部、これより、歌詠みの世におぼえ出できにけり。

これはうちまかせての⑥理運のことなれども、かの卿の心には、これほどの歌、ただいま詠み出だすべしとは、⑦知られざりけるにや。

問一　二重傍線部ア～ウの漢字の読みを、現代仮名遣いを用いて平仮名で書きなさい。

問二　A～Cの（　）内の用言を、適切な形に活用させなさい。

問三　傍線部①の定頼の言葉から、彼がこの時、小式部のことをどのように思っていたことが分かるか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　最近、歌がうまいと評判の女房であるが、丹後に歌を習いに行っているらしい。
イ　歌の才能があるという評判だが、有名な歌人の母に力を借りているにちがいない。
ウ　歌合の歌詠みに選ばれたからといって、自慢げにしているのが気に入らない。
エ　母が丹後に行ってしまっているので、歌を作ることができず、困っているらしい。
オ　歌詠みに選ばれたのに自信がないらしく、不安そうにしているのが歯がゆい。

問四　傍線部②・③は掛詞である。どのような言葉が掛けられているか、それぞれ書きなさい。

問五　傍線部④・⑥・⑦を現代語訳しなさい。

問六　傍線部⑤の定頼の態度の説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　思いがけなく恥をかかされたので、怒って立ち去った。
イ　直衣の袖をつかまれたので、怖くなって逃げ出した。
ウ　人をからかったのを指摘されたので、反省して去った。
エ　見事な歌を作られてしまったので、驚いて逃げ出した。
オ　返歌が作れなかったので、恥ずかしくなって逃げ出した。

問六	問五		問四	問三	問二	問一
	⑦	④	②		A	ア
					B	イ
			③		C	ウ
		⑥				

学年
組
番号
氏名
得点

十訓抄（大江山）　＊＊

〔出題の意図と留意点〕　古文に頻出する漢字の読みを覚える。から部分の内容を把握できるようにする。用言の活用を理解する。掛詞について理解する。文脈全体

☆解答例と配点

問一　**ア**つぼね　**イ**みす　**ウ**のうし〈6点〉

問二　**A**過ぎ　**B**ひかへ　**C**あさましく〈12点〉

問三　**イ**〈4点〉

問四　②「生野」の「生」と「行く」③「文」と「踏み」〈8点〉

問五　④これはどうしたことだ、こんなことがあるものなのか。〈15点〉

問六　**オ**〈5点〉

計50点

⑥当然のことなのだが　⑦お分かりではなかったのであろうか。

十訓抄（大江山）　＊＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。【50点】

和泉式部、保昌が妻にて、丹後に下りけるほどに、京に歌合ありけるに、小式部内侍、歌詠みにとられて詠みけるを、定頼中納言、たはぶれて、小式部内侍ありけるに、「①丹後へ遣はしける人は参りたりや。いかに②心もとなくおぼすらむ。」と言ひて、局の前をA過ぎられけるを、御簾より半らばかりB出でて、僅かに直衣の袖をひかへて、

　大江山いくのの道の遠ければまだふみもみず天の橋立

と詠みかけけり。思はずにあさましくて、「こはいかに。③かかるやうやはある。」とばかり言ひて、返歌にも及ばず、袖を引き放ちて逃げられけり。

小式部、これより、歌詠みの世におぼえ出できにけり。

これはうちまかせての理運のことなれども、かの卿の心には、これほどの歌、ただいま詠み出だすべしとは、知られざりけるにや。

問一　二重傍線部A・Bの主語を本文中から抜き出しなさい。

問二　傍線部①の「丹後へ遣はしける人」は何をしに行ったと定頼は思っているのか。十五字以内で書きなさい。

問三　傍線部②「心もとなくおぼす」の内容を、「誰の」と「どのような心情」かを明らかにして書きなさい。

問四　「大江山……」の歌の表現技巧を簡潔に説明しなさい。

問五　「大江山……」の歌で小式部内侍が言いたかったことを分かりやすく書きなさい。

問六　定頼の慌てぶりが描かれている部分を本文中から抜き出しなさい。

問七　傍線部③「かかるやう」が指している内容を、本文中から二十字以内で抜き出しなさい。

学年	組	番号	氏名	得点

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七
A						
B						

十訓抄（大江山）　＊＊＊

〔出題の意図と留意点〕　主語を明らかにして、話の展開を正しく読み取る。掛詞について理解する。登場人物の心情を理解する。

☆解答例と配点

問一　A定頼　B小式部内侍〈8点〉

問二　歌合の歌を教えて(作って)もらいに。(十三字)〈7点〉

問三　小式部内侍の母からの手紙を心待ちにしている心情〈7点〉

問四　「生野」の「生」と「行く」、「文」と「踏み」を掛詞にしている。〈7点〉

問五　母に歌を教えて(作って)もらってはいません。〈7点〉

問六　返歌にも及ばず、袖を引き放ちて逃げられけり。〈7点〉

問七　これほどの歌、ただいま詠み出だすべし(十八字)〈7点〉

計50点